令和元年 11 月 1 日
(地独)青森県産業技術センター水産総合研究所

令和元年漁期のハタハタ漁獲対象資源量の予測結果（第１報）

本年春季に試験船青鵬丸で行った調査結果をもとに、本県のハタハタ漁獲対象資源量の予測を行いましたのでお知らせします。なお、試験船青鵬丸が実施する予定の漁期前分布調査と、近県の漁獲、資源情報、沿岸の水温情報をもとに精査し、初漁日の予測結果と合わせて 11 月末に第 2 報として再度お知らせいたします。

１. 予測方法

青森県沿岸で漁獲されたハタハタ漁獲物を調べ、雌雄別、年齢別の漁獲尾数を推定し、VPA(virtual population analysis)を行い、前進法により青森県における雌雄別、年齢別の漁獲対象資源量を推定しました。

毎年 4 月～6 月に試験船青鵬丸が行う、本県沖合におけるオッタートロール調査から求めた雌雄込みのハタハタ 1 歳魚分布密度と、VPA で求めた雌雄別 1 歳魚資源量の回帰式に平成 30 年、令和元年の 1 歳魚分布密度をあてはめ、両漁期の雌雄別 1 歳魚漁獲対象資源量を求め、前進法で推定した 2 歳魚、3 歳魚、4 歳以上の結果と合わせて、令和元年漁期※の本県における 1 歳魚～4 歳魚以上の漁獲対象資源量を推定しました。　※漁期は 9 月～翌年 8 月

２. 結果　― 令和元年漁期のハタハタ漁獲対象資源 ―

漁獲対象資源量は前年並み、主体は 1、2 歳魚。

令和元年漁期に本県で漁獲対象となるハタハタ資源量は、前年並みの 1,419 トンと推定されました（前年比 102%）（図 2)。年齢別に見ると、1 歳魚が 892 トン、2 歳魚が 435 トンで資源の大部分を占めています（図 3)。このうち 1 歳魚は、これまでの調査結果から漁期によって資源に占める沿岸漁場への接岸割合が大きく変化すると考えられるため、今漁期も動向を注視する必要があります。

2 歳魚資源量は前年の約 1.9 倍と見込まれ、まとまって接岸し、今漁期の漁獲主体となると予測されました。

当所では漁期直前まで継続して調査や情報収集を行い、初漁日予測の結果と合わせて 11 月に発表予定の第 2 報でお知らせします。

※対前年比±20%未満：並み、21%以上 40%未満：やや、40%以上 60%未満：かなり、60%以上：はなはだ

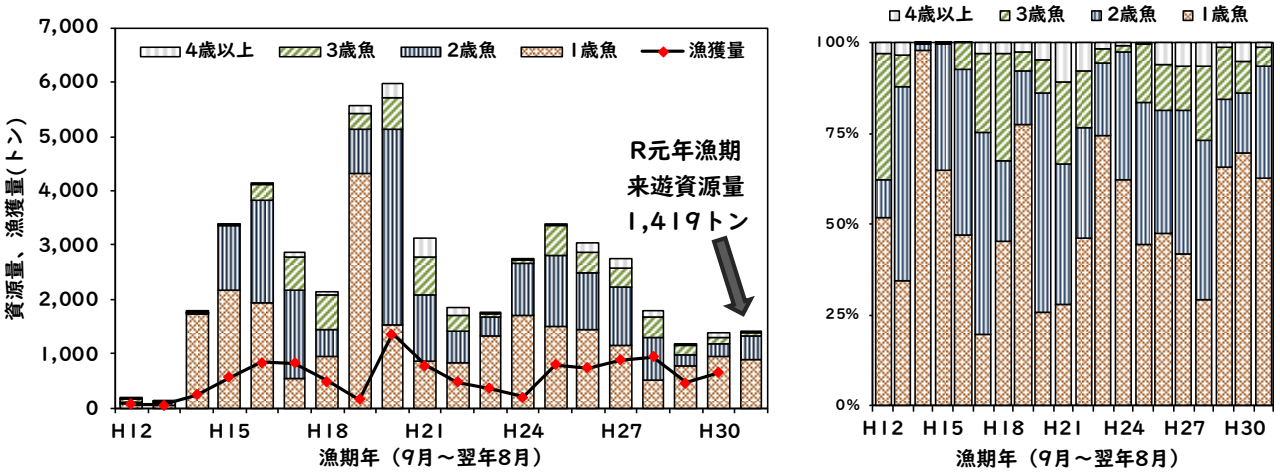

図 2（左）青森県のハタハタ漁獲対象資源量（棒グラフ）と漁獲量（折線）の動向
（右）青森県のハタハタ漁獲対象資源量に占める年齢別割合　※R 元年は予測結果